

1960年代のミニ開発住宅地S地区に関する研究

—その2 多様なコミュニケーションの実態—

日大生産工(院) ○田口 槇子
日大生産工 曾根 陽子

1 はじめに

本研究は、「ミニ開発住宅地」の1つである埼玉県川口市S地区における開発の過程と現状及び地区内に近年見られるコミュニケーションの実態に関する研究の一部である。その中でも、本報告はS地区内にあるS公民館を利用したコミュニケーションの実態に関する研究である。

2 S公民館について

S公民館は、S地区唯一の公民館として昭和45年11月から運営を開始し現在まで地域の人々の学習の場、またコミュニケーションの場として広く集会場としての役割を担っている。具体的には各種クラブ活動や多くの集会の場として、また毎年秋に開催される文化祭ではS公民館利用団体の発表の場としても利用されている。

公民館を利用する上で事前に公民館利用団体として登録するとS公民館を安く利用することが出来るために、38団体がS公民館に登録し、実際に活動している。



図1 S公民館外観

3 調査方法

(1) アンケート調査(団体の構成員)

S公民館に登録している団体の68%(26団体/38団体)に参加している人にアンケートを行った。回答人数は372人。アンケートは性別・年齢・職業の有無・家族人数・団体への参加率・団体への入会きっかけ・満足度は該当するものの選択形式で行い、複数入っている場合の団体名・住まいは記述式で行った。

(2) ヒアリング調査(団体の代表者)

アンケート調査を行った26団体の代表者にヒアリングを行い記録した。ヒアリング内容は団体発足の経緯(きっかけ)、現状(活動状況・メンバー数・年齢層・会費・勧誘方法・お互いの連絡方法・先生やコーチの有無・発表の場の有無・お祭りの参加の有無・その他公民館外での活動)、および、代表者本人について(代表者歴・なった理由・様子)。

(3) 参加型ヒアリング調査

筆者らが実際に団体活動に参加し、気づいたことを記録した。調査回数30回。

4 結果と考察

本報告は(1)アンケート調査(団体の構成員)と(2)ヒアリング調査(団体の代表者)および(3)参加型ヒアリング調査に基づいて分析した。

4.1 団体構成員の年齢と男女比

団体構成員の年齢層は60代、70代が大半を占めている(69%)。男女比は20代から50代は男性の比率が高く(71.4%)、60代から80代は女性の比率が高い(67.7%)。全体としては女性の比率が高い(55.9%)。(図2)

4.4 団体への入会のきっかけ

団体への入会のきっかけ(図5)でやりたい事の一致(14%)などの自主的な理由を挙げた人は38%(120人/314人)であるのに対して、友人からの紹介(45%)などの入会以前から団体構成員を知っていたことを理由に挙げた人は62%(194人/314人)と多い。このことから、多くの団体が知人同士のネットワークによって成り立っていることがわかる。

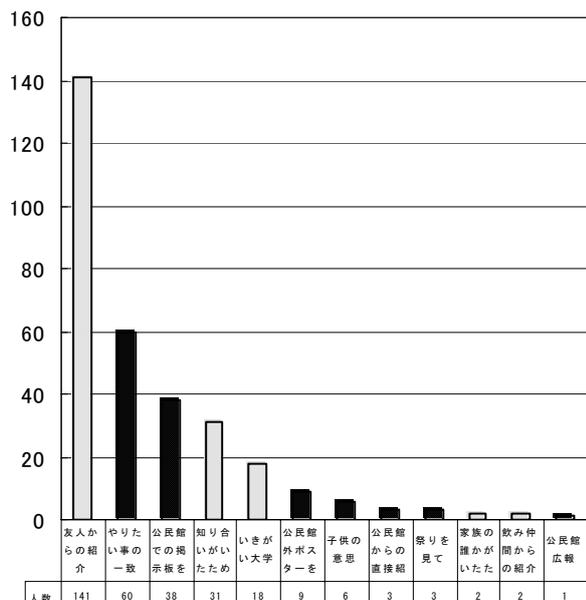


図5 団体への入会のきっかけ

4.5 居住地

団体構成員の居住地はS地区が69%(249人)と多いものの、近隣のW市・K市在住者やその他の地区の居住者もいる。またS地区居住の団体構成員の居住地



図6 S地区在住の構成員の居住地

はS地区全体に及んでいる。(図6)

4.6 特徴のある団体について

S公民館利用団体としてのソフトボールチームは「Sソフトボールクラブ」の1チームであるが、S地区内には全部で4つのソフトボールチームが活動している。

この4チームは毎週日曜日にそれぞれがS公民館の横にあるS小学校の校庭を借りて練習を行い、年に4回、4チーム総当たり試合を行い勝ち数の多いチームが優勝というリーグ戦を行っている(図7)。この試合はS町会が主催し、S地区のレクリエーション協会から優勝杯(図8)が授与されるなど、町ぐるみのイベントとなっている。またS地区にはこの4チームの選抜メンバーからなる代表チームも存在し、今年行われた川口市の公民館対抗ソフトボール試合で2位の成績を残した。



図7 試合風景



図8 優勝杯

この4チームの年齢層(図9)は20代から50代の人が69%(63人/91人)とS公民館構成員の年齢層と比べると若い人が多いことがわかる。またチームに登録していても、チームの若返りを望み試合には参加しない高齢の選手も多く、このような人たちは試合の審判や試合結果の記録などを行いチームを支えている。

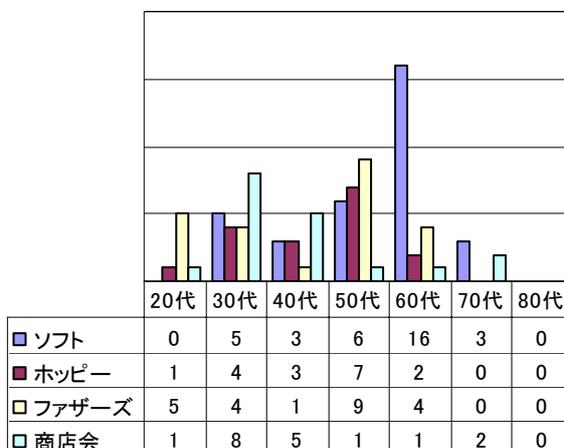


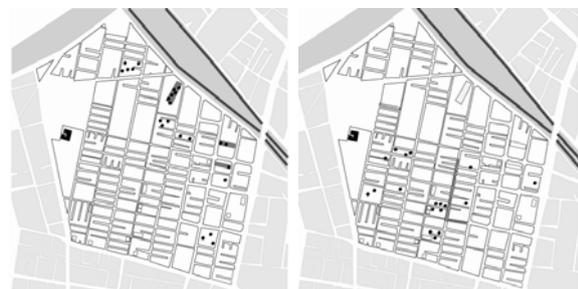
図9 4チームの構成員の年齢

4チームに所属している人の居住地は図10から読み取れるように、この4つのチームごとに、住まいとの関係が見られるチームと見られないチームがある。これはそれぞれのチームの発足理由に由来しているようである。

住まいとの関係が最も顕著なチームは「ファザーズ」であり、これは同一マンションの住人によって結成されたお父さん達のチームである。また「商店会」チームの住まいは商店街沿いに多い。これは商店会加入者から始まったチームだからである。逆に住まいと関係のないチームとしては、「ホッピースoftボールクラブ」と「Sソフトボールクラブ」である。「ホッピースoftボールクラブ」は名前のおり「ホッピー」という名の居酒屋の前の店主が店の客や友人などの飲み仲間を集めて結成したチームである。現在その店主は亡くなっている。「Sソフトボールクラブ」は4チームの中で最も古く、今年で結成31年になる。当初は野球チームであったが、誰でもが参加し易いようにとソフトボールチームに変更した過去がある。他3チームからは「名門チーム」と呼ばれている。



1. Sソフトボールクラブ 2. Sホッピースoftボールクラブ



3. ファザーズ 4. 商店会

図10 4チームの住まい分布図

このようなチームの特徴は、試合後のチームの過ごし方にも現れている。筆者らが調査を行った7月16日の各チームの試合後の過ごし方は以下のとおりである。

同一マンションの住人によって結成されたお父さん達のチームである「ファザーズ」は家族との時間を大

切にすべく、試合後すぐにそれぞれが自宅に帰っていった。「商店会」と「Sソフトボールクラブ」はS地区内にある酒屋の横の空き地でビールケースを椅子にして共に夕方まで飲んでた。(図11)「ホッピースoftボールチーム」は同じ酒屋の近くの習字教室の部屋を借り、こちらも夕方まで飲んでた。どちらもこの酒屋で酒やつまみを頼み、ついで購入していた。みなとても仲が良く家族の話から政治の話までをざっくばらんに楽しんでいた。



図11 試合後の風景

5 まとめ

S公民館利用団体の構成員は60代70代の人が多く、男性より女性の方が多い。また団体への参加率、満足度が高く、友人の紹介で団体へ入会した人が多い。構成員はS地区居住者が約7割を占めている。

よって、S地区にはS公民館を積極的に利用し、友人とのコミュニケーションをとりながら楽しく暮らしている高齢者が多いことがわかる。

また、4つあるソフトボールチームのようにS公民館を利用しながらもS町会が後ろ盾となり若い人も積極的に参加している団体もS地区には存在している。

「謝辞」

本研究に際し、S公民館加藤館長さん始め、各団体構成員の皆様にご多大なるご支援ご協力を頂きましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

「参考文献」

- ・「S公民館」http://web.city.kawaguchi.saitama.jp/ka/web_p01.nsf/doc/k21
- ・「町丁字別人口(年・月別)」
「町丁字別年齢別人口2006年1月1日」

http://web.city.kawaguchi.saitama.jp/ka/web_p01.nsf/doc/jinkou1?OpenDocument

※本稿は生産工学部建築工学科4年(平成18年度)大塚菜穂子・松本羽澄との共同研究をまとめたものである。